

さて、次に、文字学習の時期について申し上げたいと思ひます。何事によらず教育にはそれぞれに最も適した時期がある。と私は考へて居ります。で、私は、その適した時期について、いろいろと研究してみたわけでありませぬ。私の漢字教育については、早教育だとおっしゃる方が多くございますが、私は、教育は早すぎてもいけない、遅すぎてもいけない、と考へて居ります。教育といふものは、レースのやうに、早く始めさへすれば、それだけ早く決勝点に着く、といふものでは決してありません。遅すぎてもはいけません、早すぎてもいけないのです。最も適した時期に教育してこそ、子供はいとも容易にこれを理解し、吸収して、身につけることが出来るのであります。

私の今までの調査研究によりますと、文字の学習は、言葉の学習よりも少し遅れて出発するのがよろしい。しかしながら、言葉の学習と平行して行ふのが最も能率的であります。言葉の学習は、ゼロ歳から三歳までの間に、その最も重要な部分が完成します。およそ五歳ころまでには、その国の言葉といふものを殆ど身につけて、日常生活には全くさしつかへないほど、母国語が駆使できるやうになります。つまり、言葉は、ゼロ歳から五歳ころまでに、ほとんど完成するのであります。

文字、ことに漢字の学習は、ゼロ歳から五歳までに習得する言葉に対応させて学習させ、三歳から八歳ころまでには、ほとんど日常の用が

足せる所まで指導する、といふのが私の長年にわたる実験の結果の結論でございます。実験によりますと、三歳から八歳までの子供は、どんな子供でも、一年間に三百字くらゐの漢字が覚えられます。ですから、八歳ころまでには、殆ど日常の用が足りるだけの漢字力を身につける事が、これはどんな子供にも可能なのであります。これは、ほとんど精薄に近いやうな状態の子供でも可能なのであります。その事は、先ほど申し上げました比呂子先生の実験でも実証されておます。

さて、幼児は、知能の発達未熟で、抽象能力が出来てゐないことは、この精薄児の子供に近いものがあります。で、目で見、手で触れることの出来ない単なる音声を表すカナは、幼児にとって誠に理解しにくいものであります。具体的な内容を持ち、目で見、手で触れることの出来る実在を表した漢字は、理解が容易で、幼児は喜んでかたっぱしから覚えてしまひます。その覚え方は、実にもう天衣無縫で、目に触れる漢字は何の苦もなしに即座に執へて順に入れてしまひます。覚えようなどといふ気持はつゆほどもありません。従つて、全く努力なしに、負担もなしに漢字を覚えるのであります。こんな覚え方は、幼児だけに許されたもので、大人にはまねたくてもとても出来るものではありません。

この幼児の覚え方を、岡潔先生は「覚えずにいられない時期である」と、このやうに表現してゐらっしゃいます。誠に表し得て見事な表現

だと、私はさう感じて居ります。この時期の子供は、漢字を覚えようとし  
ないで、ひとりで覚えるのであります。だから、この覚えずにはあ  
られない時期を執へて、私たちの生活に必要な、私たちの思考力を伸ば  
す漢字を教へるべきなのに、それをしないで無為に過して来たといふ  
事は、何ともったいないことでしたらう。ちやうど、あの奥山の麓<sup>ふもと</sup>から発  
した水が、広大な土地を流れて太平洋に注ぐ間に、この水を何にも利  
用せず、無駄<sup>むだ</sup>に流してゐたやうなものだったと思ひます。

私が幼稚園でこのやり方を始めました時に、「幼稚園で漢字教育など  
とんでもない。幼稚園では、ほかにすべきことが沢山ある」と言って反  
対された方がございます。私は、ほかの学習を削っても漢字教育を行  
へ、と言ったことは一度もございません。私の漢字教育には、特別に指  
導の時間を設ける必要は全くないのであります。私の漢字教育は、幼  
稚園で従来やってゐる保育の中で、先生がするお話の中や歌唱指導  
の中で、あるひは掲示物の中で、文字をカナで書かないで漢字で書く、  
ただそれだけの事です。取り立てて漢字の指導をする必要はありませ  
ん。いや、漢字を教へようといふ気持は捨てた方がよろしい。子供たち  
は、見たものは覚えずにはあられないのですから、ひとりで漢字を  
覚えてしまひます。それは呼吸するやうなもので無努力で行はれるも  
のですから、漢字を覚えることによって失はれるものは何もありません。

ちやうど深山に発した水を、水力発電に使はうと灌漑<sup>くわんがい</sup>に使はうと、水は  
その用を果たした上で何の失ふところもなく、洋々と太平洋に往くやう  
なものです。発電に水を使ったからといって、水は少しもそこなはれま  
せん。幼稚園で漢字教育を行ったからといって、そのために従来のだ  
の指導もそこなはれる事は少しもないのであります。それどころか、幼  
児の頭脳に刻みこまれた漢字によって思考力の幅が広げられ、深みを  
増し、あらゆる学習が活発になります。あらゆる学習の効果が高まりま  
す。漢字の学習によって幼児の能力が開発され、幼児がそれぞれの個  
性を伸ばして能力のある人間に成長することは、私の十数年にわたる  
実験に照して自信をもってここに保証申しあげたいと思ひます。

昨年(昭和42年)8月30日の朝日新聞に紹介された、新城市の多々  
内とし江先生は、石井方式を五年間実施された先生であります。先  
生の指導する五年生は、学力テストで、国語は勿論<sup>もちろん</sup>、算数、理科、社会、  
すべての教科のクラス平均点が、他のクラスのトップと同じ成績であつ  
た、と報告されてゐます。これは、漢字学習が思考力を高めること、また、  
あらゆる教科学習の能力を高めることの証拠であります。このやうな例  
は、全国各地の石井方式を実施する先生方によって、いくつも報告さ  
れてゐます。